

# 令和4年度取り組み内容および達成状況（2022）

## 1 <中長期目標>

- ①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- ②生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸ばさせ、希望進路の実現を推進する。
- ③生徒・保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- ④浪商高校創立100周年を迎え、次の100年に向けて浪商ブランドを確立する。  
ブランド：泉州地域を代表する進学校。大阪を代表するスポーツエリート校

## 2 <重点目標>

☆スポーツと進学の本を柱にした学校の構築を目指すため、次の2点を重点目標とし、浪商ブランド確立の基礎とする。

- ①学習活動を充実させる。
- ②部活動において成果を発揮する。

☆生徒の希望進路実現のため、次の点を重点目標とする。

- ③進学指導マネジメントシステムの構築
- ④進学実績の成果向上
- ⑤中高一貫体制の確立

☆生徒一人一人に豊かな心を身につけさせるため、次の点を重点目標とする。

- ⑥規律・規範の確立と自主性の伸長
- ⑦人権教育・安全教育の充実

## 3 <目標達成状況>および<今後の課題と取り組み>

重点目標	令和4年度 具体的な取り組み内容と達成状況	令和5年度 今後の課題と取り組み
① 学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業や自主学習ができる環境作りに注力した&lt;A&gt;</li> <li>・コースによっては朝学の取り組みが不十分で目的が不明確だった&lt;B&gt;</li> <li>・主体的な学びを育む授業形態、内容の模索をipadやメタモジを活用して行った&lt;A&gt;</li> <li>・探究についてコースごとのねらいや達成目標から3年間の系統的な学びの計画を今年度の実績から修正、補強を行った&lt;A&gt;</li> <li>・到達度テスト対策として課題テストを位置づけたが日程の調整などうまくいかなかった&lt;C&gt;</li> <li>・進級規定（追試の在り方など）の見直しはできなかった&lt;D&gt;</li> <li>・コース変更規定の見直しを行い原則コース変更はできないことにした&lt;A&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習マネジメント委員会と関係部署で検討と提案を行う                             <ul style="list-style-type: none"> <li>*ICTの更なる活用と授業研究</li> <li>*朝学の目的の共有と実施統括、効果の検証</li> <li>*ipadの効果的な活用の研究</li> <li>*カリキュラム再編成に向けての議論</li> <li>*授業力向上の研修や取り組み</li> </ul> </li> <li>・進級規定（追試の在り方など）の見直し</li> <li>・進路実現のために講習、自習室の開設などで運動部の生徒も参加できる土曜日を有効に活用する取り組みを行う</li> </ul>

<p>② 部活動の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多数のクラブが近畿大会、全国大会へと出場を果たした&lt;S&gt;     ハンドボール部・女子バスケットボール部     女子野球部・レスリング部・陸上部・水泳部</li> <li>・文化部の部員数の確保のために生徒への働きかけ     &lt;B&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部、文化部の活発な活動</li> <li>・各クラブが掲げる目標達成のために日々の努力をする</li> <li>・SNSを利用して魅力を発信する</li> <li>・文化部の在り方の模索</li> </ul>
<p>③ 進学マネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各コースの進路行事の設定や目標設定について学年と進路指導部が連携し共通理解を図った&lt;A&gt;</li> <li>・進路関連行事は学年と進路指導部が連携して立案、運営を行った&lt;A&gt;     &lt;C&gt;</li> <li>・模試の結果資料の活用と分析を系統的に行った     &lt;A&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コースごとの進路説明会、進路関係の取り組みについての検討</li> <li>・進路実現のために土曜日に大学や専門学校などを招き年間を通してガイダンスを実施する。</li> </ul>
<p>④ 進学実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 3名以上 → 4名     関関同立 10名以上 → 13名     産近甲龍レベル 40名以上 → 66名     摂神追桃レベル 50 → 70名     医療系大学・専門学校 20 → 26名     大阪体育大学（内推枠） 58名 →55名     （体育学部 43→47、教育学部 15→8） &lt;S&gt;</li> <li>・A0, 指定校及び内推のグループと推薦、一般で頑張る生徒の両輪で指導することで進路実績を上げた&lt;S&gt;</li> <li>・提携校との連携を更に推進し、多数の生徒が進学した     &lt;S&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学 5名以上     関関同立 10名以上     産近甲龍レベル 60名以上     摂神追桃レベル 60名以上     医療系大学 20名     大阪体育大学（内推枠） 58名     （体育学部 43名、教育学部 15名）</li> <li>・A0, 指定校及び内推のグループと推薦、一般で頑張る生徒の両輪で指導する</li> <li>・提携校との連携を更に推進する</li> <li>・大学進学だけではなく幅広く進路を考える機会を設ける</li> </ul>
<p>⑤ 中高一貫体制の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形態や内容を検討、工夫をして行事の実施を模索した&lt;B&gt;</li> <li>・コース再編に伴い、中高一貫のキャリアマネジメントの構築を図る必要があるがほとんど着手できていない     &lt;C&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集行事に関しても中高一貫で取り組む</li> </ul>

<p>⑥ 規律規範の確立・自主性の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の特性(コースごと)に合わせた指導体制で、生徒に考えさせる生徒指導を心がけた&lt;A&gt;</li> <li>・不公平感からくる不満の解消や風評(SNS書き込み)の誘発を防ぐために生徒への対応を丁寧に行った &lt;A&gt;</li> <li>・教員のSNS使用に関するガイドラインの検討はできなかった &lt;D&gt;</li> <li>・お知らせのツールとしてClassi、さくら連絡網などの整備とルール作りを行い円滑な情報提供を心掛けた &lt;A&gt;</li> <li>・生徒会組織の再構築を図り、浪商祭を生徒主体の行事として取り組ませる目標であったが教員の共通理解が得られなかった &lt;C&gt;</li> <li>・委員会活動を工夫してみたがやはり主体的な活動にまで構築することはできなかった &lt;D&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会などを通して生徒と対話しながら校則などの見直しを図る</li> <li>・委員会活動は廃止して、クラス活動を主体において浪商祭を運営する</li> <li>・委員会活動ではなくクラブ活動を中心に主体的な活動を育成する</li> </ul>
<p>⑦ 人権教育・安全教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間の年間計画の中で系統的に取り組めた &lt;A&gt;</li> <li>・相談室、保健室との連携を強化し、教員全体が生徒情報の共有と取り組みを行うことはできなかった &lt;C&gt;</li> <li>・LGBTに関する教員研修で理解を深めた &lt;A&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談室、保健室との連携を強化し、教員全体が生徒情報の共有と取り組みを行う</li> <li>・HR, 総合的な探究の時間など3年間を通して系統的に学ぶカリキュラムの確立</li> </ul>

※達成状況は次の5段階評価で示す

<S>よく達成できた <A>まあまあ達成できた <B>どちらとも言えない  
<C> あまり達成できていない <D> まったく達成できていない

## 令和4年度 大阪体育大学浪商高等学校の学校評価

開催日：

令和5年6月25日(日) 学校関係者評価

令和5年9月19日(火) 学校関係者評価

出席者：

大阪体育大学浪商中学校・高等学校 校長 工藤哲士  
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 北川浩司  
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 濱田倫史  
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 事務長 岸本雅彦  
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 入試対策室長 植村大樹  
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 福光聖美  
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 松田博志  
大阪体育大学 体育学部 スポーツ教育学科長 曾根純也  
元保護者会会長 小林弘輝  
堀博充税理士事務所 堀博充

### 【学校関係者評価及び学校診断アンケートの結果報告】

「令和4年度の取組内容及び自己評価」、生徒、保護者、教職員の「学校診断アンケート」の資料やグラフに基づき詳細な説明を行った。

#### 1) 学校関係者からの意見

- ・生徒・保護者とも肯定率が高いのはすばらしい。
- ・年々厳しくなっていると思うが、生徒募集について状況はどうか。特に中学校は厳しいのでは。
- ・ICT機器の利用について、伸びてきているようだが、具体的にはどのように利用しているのか。→授業支援アプリ (Metamoji Classroom) を導入した。
- ・今後のICT機器の整備についてどのように考えているのか。可能な範囲で、保護者会や同窓会にサポートしてもらってはどうか。→サポートしていただけるとありがたい。
- ・たくさんの卒業生がいて、幅広い職種に就いていると思うが、職業観の育成もかねて、交流する機会を設けてみてはどうか。ホームカミングデイのようなもの。
- ・教育内容の質をあげ、地域に発信することで、生徒確保が難しくなっている状況を変えるチャンスになるのではないかと。→地元の中学校になじめないかもしれないという理由で浪商中学校を受験する児童もいる。いろいろな層の児童を受け入れることで自慢できる学校にしていきたい。
- ・「中学」はとても大切。テコ入れはできているのか。中高の教員の交流はあるのか。→6年前から中高の職員室を同じにし、担任や授業も相互入れ替えを行っている。
- ・中高大で連携しているレスリング、ハンドをアピールすべき。
- ・見直すべきところは見直して、再評価し、変革している実態をもっととりあげるべき。
- ・「毎日、家庭学習をしていますか。(塾以外)」の数値は気になる場所であるが、全体的に改善点が見られる。
- ・ICTの活用で、まずiPadを「見る」のはいい流れだと思うが、質の向上につながっているのか検証が必要である。→iPadは今の生徒の現状に合っているとは思いますが、それが質の向上につながっているのかは確かに検証が必要。
- ・「私は友達が困っているとき、相談に乗ったり、助けたりする」と「私には、悩みなど相談できる友達がいる」の肯定率が高いのが最高にいいこと。いい雰囲気を作っている証拠。

## 2) まとめ

・めざす学校像は「中期目標」に掲げる、①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに豊かな心を身に着けさせる ②個々の伸長及び夢や希望進路を実現 ③地域社会から信頼される学校 ④浪商ブランドの確立 を具体的な「重点目標」に設定している。

・重点目標の設定は、進学とスポーツの2本柱として浪商ブランドを確立させることを基本として、①学習活動の充実、②部活動成果を第一義に挙げている。次に生徒の希望進路実現のために、③進学マネジメントシステムの構築、④進学実績の向上、⑤中高一貫体制の確立を重点目標に設定している。また一人ひとりに豊かな心を身に着けさせるために、⑥規律・規範の確立と自主性の伸長、⑦人権教育・安全教育の充実などを挙げ、中長期目標に沿った具体的な重点目標の設定と取り組みが行われていると評価できる。

・上記の重点目標①～⑦の具体的項目ごとに、令和4年度の「具体的取り組み内容とその達成状況」を5段階（S、A～D）で学校関係者評価と対応して、令和4年度の「今後の課題と取り組み」も表記されている。また、今年度の特徴（過去3年間との比較）、項目別比較、コース別比較、アンケート対象者別比較、様々な観点から検証を行うとともに項目別の検討課題を抽出し、具体的対策まで明確に示されている。

以上の観点から、「令和4年度取り組み内容及び達成状況（2022）」の資料を統括して、学校評価への取り組みは適切な者であると評価できる。